

ダム研修会報告

期 日:2021年11月3日(水) 文化の日

天 候:快晴

研修場所:有馬ダム(飯能市下名栗)

浦山ダム(秩父市荒川)

講 師:辰尾俊明(当会会員)

参 加 者:11名(池田、桂、高杉、星野、関谷、辰尾、
河野、西田、鴻森、土金、本田)

報 告 者:本田



今回は埼玉県内の2ヶ所のダムを見学し、その役割や構造について学びました。

午前9時30分、有間ダムの下流500mの「さわらびの湯」の駐車場に集合。池田会長と研修担当の桂さんの挨拶後、有間ダムに向かいました。駐車場は棒の嶺登山の拠点であるため、登山客でかなり賑わっています。素晴らしい快晴で、秩父の山々の緑と青空のコントラストが見事な一日でした。



有間ダムの上部の左岸に到着し、ダムの構造、規模、目的について本日の講師である辰尾さんにレクチャーを頂きました。辰尾さんは建設会社でダム建設に携わってきたベテランダム師です。その後、堤体上部260mを経て、右岸の選択取水口と洪水吐き呑み口を見学しました。選択取水口とは、下流の水温を正常に保つ為、湖の上層と中層と下層から取水する設備です。

<有間ダム概要>

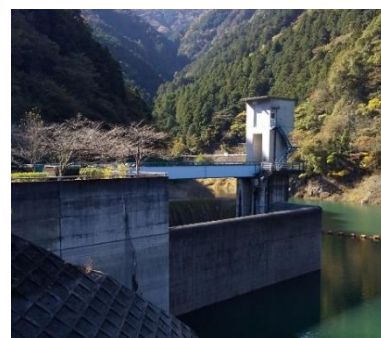
- ・河川名 荒川水系入間川右支川有間川 ・ダム湖名 名栗湖(埼玉県で初めての県営ダム)
- ・事業目的 多目的ダム(洪水調節、上水道・農業用水、流水の正常な機能の維持)
- ・形式 中央土質遮水壁型ロックフィルダム(堤体材料は粘土で、これを締固め石を積み上げたもの)
- ・堤高 83.5m
- ・総貯水量 760万 m^3



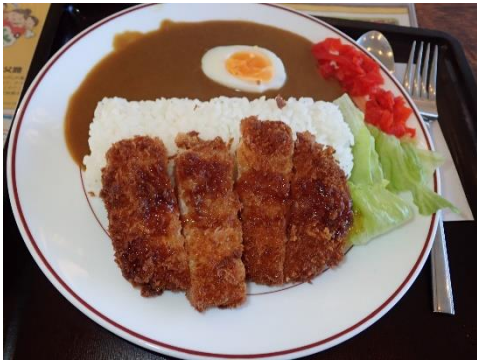
堤体



ダム湖



洪水吐き



次に、車で浦山ダム(秩父さくら湖)に移動。まずはダムの堤体上部にてお弁当タイム。何人か防災資料館の食堂でダムカレーを賞味し、「おいしかったよ!」との食レポがありました。皆様も次の機会に召し上がってはいかがでしょうか。

満腹後、エレベーターで堤体頂部から132m下の堤体内部まで一気に下降しました。内部は涼しく、年間を通じて気温は一定とのことです。ダムのたわみを計測するプラムライン装置やダムの計画から完成までの歴史を振り返るパネル等が展示されています。内部の通路から下流広場に出ると、目の前で減勢池、発電所、利水放流設備などを見学できました。下流広場から見上げるコンクリートの堤体と洪水吐き口は壮大で見事でした。また、ダムの貯水池側には黒い配管が設置されていますが、これはダム上流の水を直接下流に流すための清水バイパス管であり、配管全長は上流の取水口から6kmに及びます。

<浦山ダム概要>

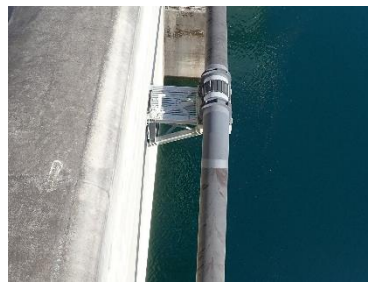
- ・河川名 荒川水系浦山川
- ・事業目的 多目的ダム(国営で大規模)
(洪水調節、上水道、発電、流水の正常な機能の維持)
- ・型式 重力式コンクリートダム
(RCD施工で堅い)
- ・堤高 156m(国内6位)
- ・総貯水量 5,800万^m



説明を受ける



堤体頂部



清水バイパス管



堤体を見上げる

今回の研修では、ダム建設に当たって様々な課題がある中で、自然保護活動、ダム湖周囲の緑化対策、ダム湖岩の植生工では冠水に強いヤマハンノキやタチヤナギなどが利用されることなどを知り、有意義な研修会となりました。

